

## < 執行委員長より新年のご挨拶 >

### 「国労の未来を切り開くために J R 東日本に労働組合を広めよう」

組合員並びにご家族の皆さん、明けましておめでとうございます。穏やかな新春をお迎えることとお喜び申し上げます。

2019年は統一自治体選挙、第25回参議院議員選挙等、今後の日本社会の行方を占う重要な政治決戦の年でした。

参議院選挙では、安倍首相の悲願である憲法改正に必要な改憲勢力3分の2が維持されるかが焦点でした。しかし、野党統一候補の奮闘により、32の1人区における10議席の獲得などがあり、その思惑を打ち砕くことが出来ました。各地方で選挙戦に携わられた組合員の皆さんにあらためて感謝申し上げます。

与党は、12月9日会期末の臨時国会での「国民投票法改正案」の採決は踏みとどまりました。一方で、相次ぐ大臣の辞任、失言による謝罪、「桜を見る会」問題等々、様々に政権内の綻びが見えてきています。引き続き改憲策動に反対する取り組みを進めてまいります。

二点目は、2018年に続き台風、大雨被害などに見舞われた年でもありました。犠牲になられた方々のご冥福をお祈りすると同時に被災された皆さんへ心からお見舞い申し上げます。

9月の台風15号は、東海から関東地方を直撃し、千葉県を中心に家屋の損壊などの報告を受けています。組合員からは、50件余りの被害報告を受けています。さらには台風19号、21号に伴う大雨被害は、長野、仙台の組合員を中心に10数件の床上浸水をもたらしました。「仲間に泥出しなどを手伝ってもらい助かった」との報告もいただきました。

国労本部は、昨年にも続き被災組合員支援の緊急カンパを取り組みました。10月26日には、東日本本部と本部が連携し、断水が長期化していた水戸地本いわき地区に入り、水とマスク、軍手等支援物資を届けてまいりました。現地からは感謝の声が届けられています。集約されたカンパ金の取り扱いについては、本部と相談し、被災状況など検討しながら組合員へ届けてまいります。勤務の取り扱いについては、不慣れな管理者が増え、問題ある対応の職場も見受けられます。様々な問題に関しては逐次、会社側へ問題提起し、改善を求めてまいります。

三点目は、安全・安定輸送の確立と職場労働条件改善の取り組みについてです。2019年もグループ経営ビジョン「変革2027」のもと、制度改正や施策の展開が図られました。「新たなジョブローテーション」「通勤手当等の見直し」「ワンマン運転の拡大」等の提案を受け、団体交渉を精力的に展開してまいりました。業務連絡報で交渉経過は遅滞なく発信していますが、具体的には「支社で準備出来次第提案する」等との内容が多く、地方との連携が重要になっています。実施後の検証、見直し要求の確立など、団体交渉をサイクル化して改善を求めてまいります。

8月から墜落事故、感電事故、生き埋め事故、あわや触車の待避遅延、車両逸走等々、グループ会社を含め事故・事象が多発しています。変革のスピードに追いつけない現場の実態が、社員の命と引き換えになってはなりません。会社に対しては、あらゆる機会を通して安全問題について警鐘を鳴らし続けてまいります。

四点目は、そのためにも組織拡大、労働組合の影響力を高めることが何より重要です。J R 東日本における労働組合の組織率は現在、全体の3割ほどで7割は組合未加入の状況です。職場代表選挙などを通して職場の仲間と仕事の悩みや問題点を考え合い、働きやすい職場、会社を作るための「仲間づくり」を粘り強く推し進めてまいります。そして再び労働組合が社員の代表、多数の声に位置付けられる会社にしていくことが、私たち労働組合に求められています。

結びになりますが、本年が組合員・家族の皆さんにとっても実り多い年となるようご祈念申し上げます。東日本本部を代表しての新年のご挨拶とさせていただきます。